



出張報告書

令和5年10月24日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会  
 代表者氏名 別府 建一  
 出張者氏名 別府建一、寺井大地、  
 高谷浩司

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

- 1 出張期間 令和5年8月17日から令和5年8月18日まで
- 2 結果の概要

用務先 ・小松市議会 ・敦賀市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 コミュニティバスについて 2 otta (公民連携による駅前開発事業) について
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

- 3 届出事項の変更等  なし  あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

<input type="checkbox"/> 精算額は、令和 年 月 日届け出た額 ( 円) と同一額である。 <input checked="" type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)
---

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

往路の列車が、台風の影響により計画運休となったため。  
初日(16日)の行程をキャンセル。

支出額	138,870円
精算額	94,830円
支出 差引額 戻入	44,040円

変更前と後の日程

8月	16日	17日	18日	日	日	日	日
前 発着地	尼崎市 富山県A	富山県A 石川県A	石川県A 福井県D 尼崎市				
後		尼崎市 石川県A	石川県A 福井県D 尼崎市				
前 経路							
後							
前 用務先	富山市 富山県	小松市	敦賀市				
後		小松市	敦賀市				
前 宿泊先	富山市	小松市					
後		小松市					



出張報告書

令和5年10月24日

尼崎市議会議長 様

会派名 日本維新の会  
 代表者氏名 別府 建一  
 出張者氏名 安浪順一、辻信行、  
 松岡洋司、長崎くみ

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和5年8月17日から令和5年8月18日まで

2 結果の概要

用務先 ・小松市議会 ・敦賀市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 コミュニティバスについて 2 otta (公民連携による駅前開発事業) について
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備考

3 届出事項の変更等  なし  あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

<input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和5年8月9日届け出た額 (126,440円) と同一額である。  <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)
---

(裏面)



届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

# 出張報告書

【日時】2023年8月17日・18日（一泊二日）

【視察先】17日：石川県小松市、18日：福井県敦賀市

【参加者】安浪順一、別府建一、辻信行、松岡洋司、長崎久美、高谷浩司、寺井大地

【報告者】寺井大地

【概要】

- ①石川県小松市：小松市の地域公共交通について（小松市行政管理部地域振興課）
- ②福井県敦賀市：駅西地区土地活用の官民連携事業（敦賀市都市整備部都市政策課）

【内容】

## ① 小松市の地域公共交通について

《目的》

石川県小松市で実施されているコミュニティバスの運用・課題・展望をヒアリングし、移動困難者が増えていく本市の特定地域において活用の検討が可能か調査すること。

《内容》

・石川県小松市について

小松市には奈良時代より加賀国府が置かれ、歌舞伎の舞台となる曳山、お旅祭りや前田利常の隠居城などの豊かな歴史を持ちながら、航空自衛隊と小松空港があり、来年には北陸新幹線も接続し、今後さらに発展が期待されている自治体の1つである。

・地域公共交通について

小松市において、「コミュニティバス」タイプの運用は平成8年から運行開始しており、地域の声や要望に応える形で実証実験やダイヤの見直しを実施し、現在3路線の運用をしている。生活路線バスでカバーできていない「交通空白地域」を埋める役割を持つ。利用者は、コロナの影響により減少しているものの、年間68,460人（H30）の利用があり、地域の方々に大事にされている交通手段ではあるものの、地域の声を聞きすぎて長大路線となってしまうこと、国庫補助と運賃収入だけでは賄えてはいないなど財政的な課題についてもお聞きした。

その他の課題としては、バスの運転手不足が挙げられており、更なる効率化を求め、コミュニティバスにカメラを取り付け、「どの時間・どこで乗って・どこで降りるのか」など費用をかけて再編を進めている。また、山間地など乗客が数名しかいない地点においては路線を廃止する一方で、予約制のデマンドタクシーを導入し、利便性向上に繋げようとしている。AIデマンドタクシーなどの検討も実施しているそうだが、先行して導入している加賀市においては、システムを導入しているにもかかわらず予約は90%がTEL予約とのことで、デジタル化の需要についてしっかりとした調査が必要であることも再認識できた。本市に、視察した内容がそのまま当てはまるかは今後研究が必要だが、地域公共交通の考え方について学ぶことが

できたため、質疑に活かしていく。

## ② 福井県敦賀市における駅西地区土地活用に関わる官民連携事業について

### 《目的》

敦賀市が行った先進的な駅前開発の官民連携手法を調査し、本市での駅前開発や公設地方卸売市場などの開発に向けての学びとすること。

### 《内容》

敦賀駅は、2023年度末の北陸新幹線が金澤～敦賀間開業にむけ、北陸新幹線プロジェクトが進行しており、駅前の広場を先進的な官民連携手法で整備している。北陸新幹線敦賀開業により、敦賀は金沢、東京をはじめ、関西方面、中京方面の始発駅となり、また、終着駅ともなる。また、市民と来訪者の交流や賑わいの創出の拠点となるよう、ホテル、飲食店、物販店、子育て支援施設、知育・啓発施設「otta」が整備されており、中心には芝生が広がる「駅西広場公園」が整備され、各施設をキャノピー（ひさし）で繋ぐことにより回遊性の高いコミュニティスポットとしているのが施設の特徴。このキャノピーも、道路を越えて建物をつなぐため権利関係も非常に複雑だったとのことだ。

この知育・啓発施設というブランディングになったのは、先進事例を数多く視察された結果、①ターゲットを徹底的に絞ること、②本にまつわる集客性、など得られた知見から、「情報・知的刺激・融合・自己啓発・学び・活動・余暇・日常・憩い・寛ぎ」というキーワードを1つの言葉で説明したものが、「知育・啓発」とのことだった。

土地は、敦賀市が所有するもので、民間企業へ貸し出して整備させている。貸し出して整備する上で、公共機能を入れること前提で、借地期間や利用用途などサウンディング調査していた。

実際に何うと、ちえなみき（図書機能）は、その構造や本の置き方・選び方が非常にユニークだった。上から見ると、木の形に本棚が配置され、本棚の中に椅子が整備されており、また、目の配置に合わせて本を積読のように置く、そしてその時だけ売れている流行本はおかず、なかなか見かけないニッチな本や、定番の本など、本選びのコンサルタントが選んでいた。例えば1冊数万円する本も置いており、意外と売れ行きが良いという話もお聞きした。

広場もイベントができるよう電源が配置されており、芝生エリアと人工芝生のエリアを使い分けるなどしている。飲食店も並び、賑わいを生んでいる上、駅から広場を通りホテルまでキャノピーで雨に当たらず通行ができる工夫もされていた。ホテルは高級路線の施設となっているが、稼働率は90%を越えているという話もお聞きし、ブランディングが見事に成功している事例だと感じた。

全体を通して、この官民連携事業が大成したのは、当局と議会の綿密なコミュニケーションであり、当局が非常に細やかに情報共有を行っていたとのことだった。例えば先ほどの高価な本についても、数万円する本を置く必要があるのか、という議員の質問に対して、現物を持

ってその狙いや予測を示すことで、理解と促進に繋げ、さまざまな取組を進めた結果、個性豊かで市民に愛されるちえなみき（図書機能）となっている。

以上より、今後本市においても市有地を民間と共同で開発していく際には、さまざまな先進事例を多く学び、サウンディング調査の結果をしっかりと活かしながら、「過去にやったことがない・実績がない」といったことで見送るのではなく、当局と議会が両輪で知恵を絞っていくことで進めていく必要があると感じた。公設地方卸売市場や中央公園の整備などが控えている本市にとって、この敦賀駅前の官民連携の再開発事業の進め方は非常に参考になり、本視察で得られた知見を活かしていく。